

令和6年度

ウッドシティ TOKYO モデル 建築賞

受賞作品集

協力

清水建設株式会社
 東急株式会社
 東急電鉄株式会社
 株式会社交建設計
 UDS株式会社
 株式会社坂田涼太郎構造設計事務所
 東急建設株式会社
 野村不動産株式会社 都市開発第一事業本部
 Mistletoe Japan 合同会社
 VUILD株式会社
 有限会社アトリエ海
 国立大学法人 東京科学大学
 国立大学法人
 東京科学大学 那須聖研究室/施設部

株式会社久米設計
 株式会社フジタ 東京支店
 合同会社あまね設計
 株式会社JR中央線コミュニティデザイン
 株式会社大林組
 株式会社JR東日本建築設計
 Koizumi Studio
 万葉倶楽部株式会社
 株式会社シェルター
 株式会社アンデザイン
 五洋建設株式会社
 株式会社石井工務店

(掲載順)

発行

令和7年3月

発行者

東京都 産業労働局 農林水産部 森林課
 東京都新宿区西新宿2-8-1
 TEL.03-5320-4855

制作

株式会社トライ



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

登録番号(6)21



令和6年度

ウッドシティ TOKYO モデル 建築賞

受賞 作品集

ウッドシティ TOKYO モデル建築賞について

東京都では、木材の大消費地・東京において、新たな木材需要を喚起することで、多摩地域をはじめ全国の森林循環を促進し、林業・木材産業の成長を図るため、木材利用の新たな可能性を開拓する革新的・モデル的な建築物又は木質空間を表彰する「ウッドシティ TOKYO モデル建築賞」を実施しております。

審査における着眼点

- ・国産材の特徴や良さを活かし、有効活用しているもの
- ・先進的な木材利用の普及に寄与するもの
- ・都市部における建築物の木造化、木質化の波及に寄与するもの
- ・建築物又は木質空間として優れたデザインであるもの
- ・建築等の過程において女性が活躍したもの（女性活躍賞のみの着眼点）
- ・都市部におけるオフィスの木質化の波及に寄与するもの（オフィス木質化賞のみの着眼点）

審査経過

- ・令和6年7月8日から令和6年8月30日まで作品募集
- ・令和6年10月16日 審査
- ・令和6年12月19日 表彰式（「WOODコレクション（モクコレ）2024 Plus 開会セレモニーにて受賞作品の発表）

応募対象

- ・東京都内に所在すること。
- ・公開可能な非住宅の施設であること。
- ・構造材や内装材などの全部又は主要な部分に国産材を使用していること。
- ・直近5年以内（平成31年4月1日から募集開始の前日まで）に竣工した木造及び混構造建築物、又は直近5年以内に木質化した空間であること。
- ・建築基準法等各関係法令を遵守していること。
- ・同一の建築コンクール等において、知事賞や大臣賞の受賞歴がないこと。

審査委員（五十音順）

- ・杉山 和佳子 氏
一般社団法人日本インテリアコーディネーター協会 副会長
- ・多幾山 法子 氏
東京都立大学大学院都市環境科学研究科建築学域 准教授
- ・原田 真宏 氏
株式会社マウントフジアーキテックススタジオ一級建築士事務所 主宰建築家、芝浦工業大学建築学部建築学科 教授
- ・古谷 誠章 氏
早稲田大学創造理工学部建築学科 教授
- ・東京都産業労働局 農林水産部長

受賞作品 / 所在地情報

作品関連サイト



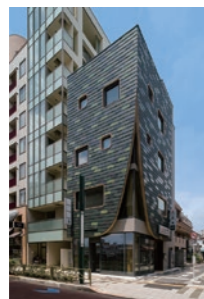
最優秀賞（東京都知事賞） 01 | 温故創新の森 NOVARE

〒135-0052
江東区潮見2-8-20
JR京葉線「潮見駅」より徒歩3分
2025年度よりNOVARE Archives・旧渋沢邸の一般公開を予定（予約制）



温故創新の森 NOVARE HP
<https://www.shimz.co.jp/novare/>

P.3



女性活躍賞（東京都知事賞） 奨励賞（東京都産業労働局長賞） 02 | 田園都市線駒沢大学駅 西口2ビル

〒154-0011
東京都世田谷区上馬4-4-1
東急田園都市線「駒沢大学駅」西口



東急電鉄株式会社「Green UNDER GROUND」HP
<https://ii.tokyu.co.jp/grows/gug>



東急電鉄株式会社「Green UNDER GROUND」Instagram
https://www.instagram.com/gug_5stations/

P.5



オフィス木質化賞（東京都知事賞） 奨励賞（東京都産業労働局長賞） 03 | 野村不動産溜池山王ビル

〒107-0052
東京都港区赤坂1-1-14
東京メトロ銀座線・南北線「溜池山王駅」より徒歩4分
東京メトロ銀座線「虎ノ門駅」より徒歩6分
東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」より徒歩7分

©川澄小林研二写真事務所



野村不動産溜池山王ビル HP
<https://www.officenomura.jp/nomura-tameikesanno/>

P.7



©Takumi Ota

奨励賞（東京都産業労働局長賞） 04 | 学ぶ、学び舎 東京学芸大学 HIVE 棟

〒184-0015
東京都小金井市貫井北町4-1-1
JR中央線「武蔵小金井駅」より徒歩16分
武蔵小金井駅より京王バス6番のりば「中大循環」下車、徒歩1分



東京学芸大学 HP
<https://www.u-gakugei.ac.jp/>



VUILD 株式会社
<https://vuild.co.jp/projects/1085/?page=1>

P.9



©鈴木淳平

奨励賞（東京都産業労働局長賞） 05 | 東京科学大学 大岡山西5号館

〒152-8550
東京都目黒区大岡山2-12-1
東急大井町線・目黒線「大岡山駅」より大岡山東地区 正門まで徒歩1分



東京科学大学 HP
<https://www.isct.ac.jp/ja>

P.11



©川辺明伸

奨励賞（東京都産業労働局長賞） 06 | 休昌院 — 令和の大改修 —

〒110-0008
東京都台東区池之端2-5-38
東京メトロ千代田線「根津駅」より徒歩2分



あまね設計 HP
<http://www.amane-llc.jp/>

P.13



©ナカサ&パートナーズ/辻谷宏

奨励賞（東京都産業労働局長賞） 07 | nonowa 国立 SOUTH

〒186-0004
東京都国立市中1-1-52
JR中央線「国立駅」南口より徒歩1分



株式会社 JR 中央線コミュニティデザイン HP
<https://www.jrccd.co.jp/nonowa/kunitachi/>



https://www.jrccd.co.jp/company/communitydesign/feature_11/

P.15



奨励賞（東京都産業労働局長賞） 08 | 豊洲 千客万来

〒135-0061
東京都江東区豊洲6-5-1
ゆりかもめ「市場前駅」から徒歩4分
東京BRT「豊洲市場前」から徒歩3分・「ミチノテラス豊洲（豊洲市場前）」から徒歩7分
都営バス「市場前駅前」から徒歩5分・「新豊洲駅前」から徒歩9分



豊洲 千客万来 HP
<https://www.toyosu-senkyakubanrai.jp/>

P.17

*受賞作品掲載の図面の縮尺について
一部の図面中にある縮尺表記は受賞者から提供された図面原本によるものです。図面原本を本誌のサイズに合わせて縮小などをおこなっているため、紙面上の縮尺は正確ではありません。



01 | 最優秀賞

温故創新の森 NOVARE

受賞者 施主・設計者・施工者／清水建設株式会社

木材の利用率を上げながら、耐火要件を満たし、未利用材を最小限に

江東区潮見に位置する「温故創新の森 NOVARE」は、清水建設が建設業の枠に捉われないイノベーション活動を、社内外問わず推進していくための施設である。

施設の中心機能を担うNOVARE Hubにおいては、木質ハイブリッド屋根架構、木材によるOAフロア、広葉樹材の利用、木材のアップサイクルなど、社会の本質的なニーズを思考し、試験的に様々な木材利用を行い空間構成を図った。

木材の可能性を探求する挑戦も行っている。それは、建築において木材利用をするうえで必ず課題となる「いかに木材を活用し、耐火建築物とするか」である。木質ハイブリッド屋根架構は、屋根の補剛材として多くの集成材を構造部材として活用することで、耐火要件を満たすことに成功している。もう一つの課題となる内装制限についても、内装制限

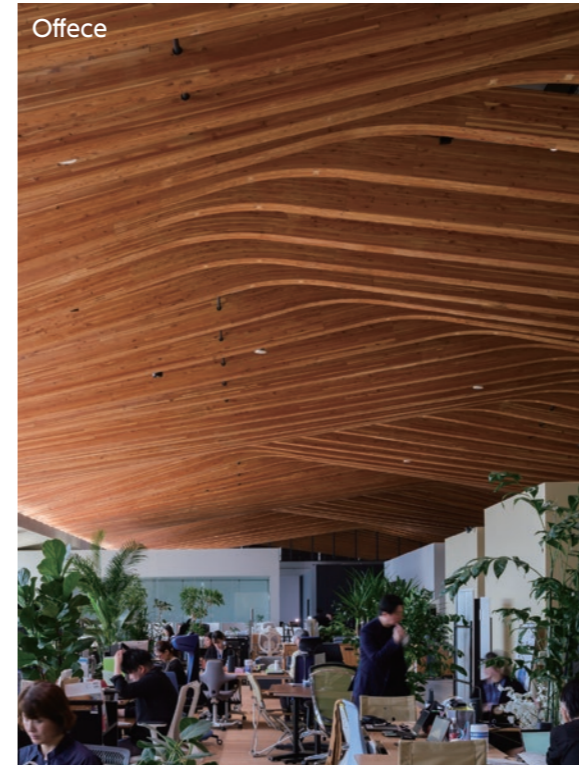
が適応されない床仕上げを木質化することで木材の利用率を上げた。OAフロアの木質化は、これからのオフィスの風景を変える可能性がある。品質のばらつきや管理が難しいといった側面はあるが、当施設ではプロトタイプとして開発し、試験導入した。

また、針葉樹だけではなく広葉樹も建築材として利用。一般的には未利用材となってしまう斑の多い材についても「デザイン」と捉え、余すことなく昇華することで、「色斑のない材だけが美しい」という固定観念を覆す挑戦にもなった。

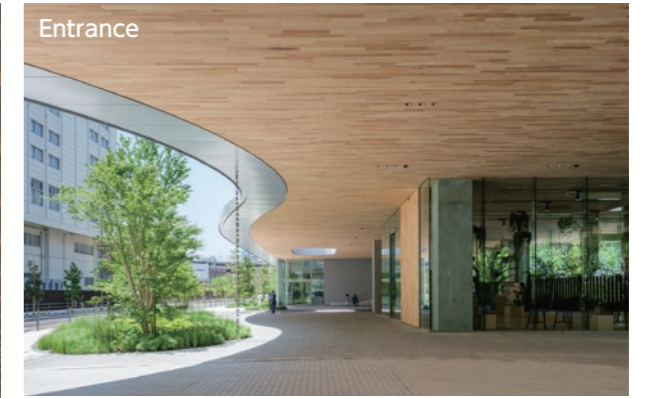
なお、床材には、当社が過去に施工した有明体操競技場のベンチを解体し、その木材を再利用した。古くから日本では古材が用いられているが、アップサイクル材の可能性を探求した試みになったと考える。



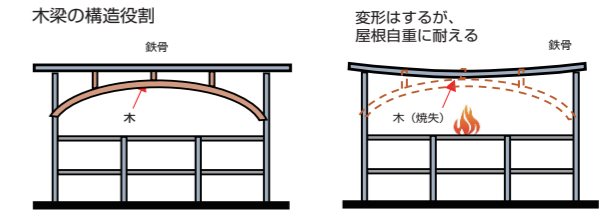
NOVARE Hub



Office



Entrance



木質ハイブリッド屋根架構

- ・鉄骨造の鋼材量を最小化し変形を抑える木梁
- ・都市部の耐火建築物にも適用できる木質構造



Office



木材の循環利用と木質OAフロア

- ・一部に有明体操競技場のベンチ材をアップサイクル
- ・木の加工のしやすさを活かし床吹出し空調の孔やファンを取付

ベンチ材アップサイクル

実際のベンチ



内装制限の規制を受けない床材のCLT材によるOAフロアへの取組みと木材のアップサイクル利用

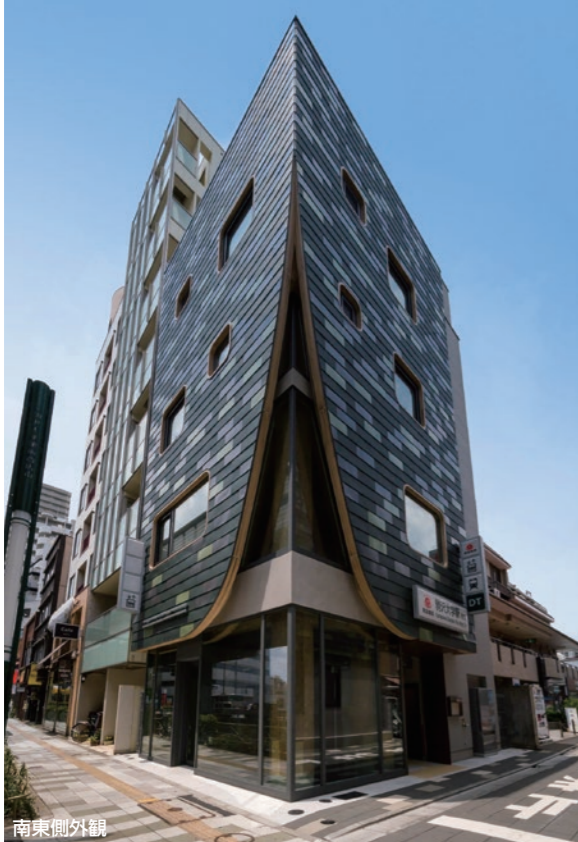


広葉樹材(カバ材)を利用
一般的に、斑が多く未利用となってしまう材も積極的に利用し、デザインに活用(斑のある軒天)することで未利用材を最小限にした。

受賞概要・講評

江東区に所在するイノベーション活動推進施設。木質ハイブリッド屋根架構、杉CLT材によるOAフロア、広葉樹材の建築部材への活用などの積極的な木質化を試みた施設となっている。

本作品について、「都市部におけるオフィスのサンプルとして見学もでき、他建築への波及効果が高い点」「オフィスでのOAフロアに木材は採用出来ていなかった部分であり、杉材のOAフロアを導入している点」等が評価された。



南東側外観



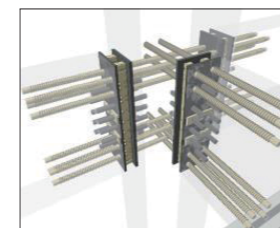
4階駅係員用休憩室



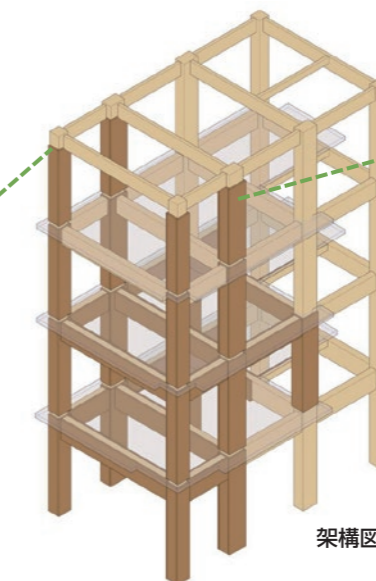
2階店舗区画

全国“初”の耐火・構造技術を導入した木造駅ビル

- ①4階建て2方向ラーメン構造
 - 全国2例目
 - 耐震壁・耐震ブレース等が不要
 - レントラブル比率が向上
- ②ラグスクリューボルト接合
 - 全国初の2方向ラーメン構造への適用

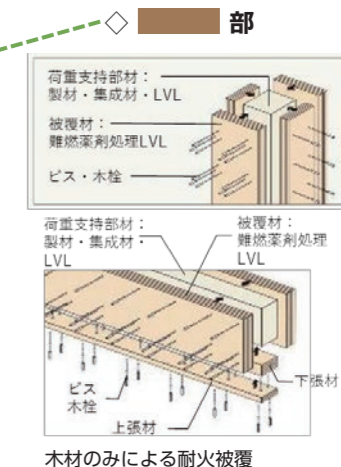


高強度・高剛性に加え、靱性能を有する接合



架構図

- ③LVL耐火被覆（耐火建築物）
 - 全国初の柱・梁への適用

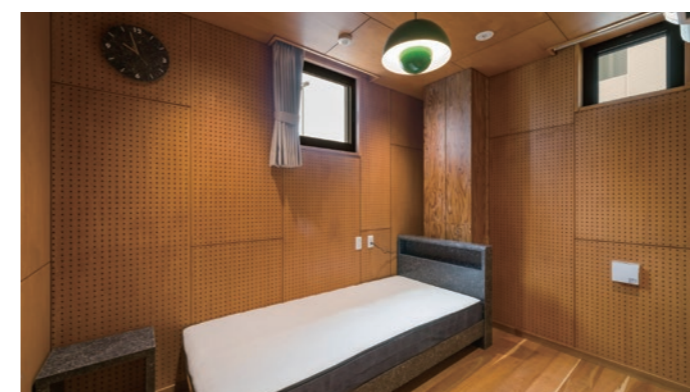


木材のみによる耐火被覆

02 女性活躍賞ならびに奨励賞

田園都市線駒沢大学駅西口2ビル

受賞者	女性活躍賞	東急電鉄株式会社 榎 千佳 東急電鉄株式会社 塚田 麻由美 株式会社交建設計 梶倉 範子 UDS株式会社 佐藤 弥生
	奨励賞	施主 東急株式会社、東急電鉄株式会社 設計者 株式会社交建設計、UDS株式会社、株式会社坂田涼太郎構造設計事務所 施工者 東急建設株式会社



4階駅係員用宿泊室



4階駅係員用ロッカー室



1階店舗区画



1階エレベーター乗り場

「まちのシンボルツリー」になるよう、最新技術を駆使し、地上部分を木造化

当駅ビルは、田園都市線駒沢大学駅リニューアル工事の一環として建設された。バリアフリーエレベーターを併設した駅出入口、店舗、駅係員用施設を主とした複合施設として地下RC造2階、地上木造4階のビルとなっている。

建物外観は、まちのシンボルツリーとなるような樹木をイメージしてデザインしており、駅係員が使用する休憩室・宿泊室は木の内部にいるような内装を目指した。

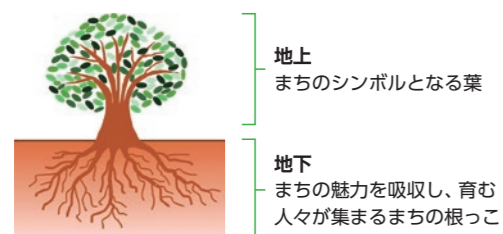
当駅ビルは都市部の比較的狭小敷地においてよく見られる典型的な民間建物であり、一般的には鉄骨造等

で建てられているが、このような中規模の民間建物を木造化していくことが木材利用促進の観点から重要であると考え、木造化に挑戦した。

当該敷地は建築基準法において防火地域に指定されており、耐火木造建築物とする必要があったため、LVLによる耐火被覆を採用し、被覆部分も含めてすべて木による柱・梁を実現した。なお、この耐火被覆を柱と梁ともに採用したのは全国初となる。

構造は伸び能力のある鋼材を接合具に用いたLSB接合による2方向ラーメン構造であり、当接合方法を用いた4階建て2方向ラーメン木造としては今回が全国初である。

こうした最新技術等により当駅ビルの地上部分の木造化を実現するとともに「建物に対する木材使用率」「レントラブル比率」の最大化を図った。また、これらの取り組みが評価され、国土交通省の「令和4年度サステナブル建築物等先導事業（木造先導型）」に採択されている。



受賞概要・講評

世田谷区に所在する駒沢大学駅リニューアル工事で建築された複合施設。LVLによる耐火被覆を用いて柱・梁に全て木を採用し、構造はLSB接合による2方向ラーメン木造を用いた施設となっている。

女性活躍賞

ダイバーシティマネジメントを経営戦略の一環として女性活躍を推進しており、計画段階では、駅係員のキャリア形成を支援するため女性駅係員用宿泊室を小規模な駅では初めて配置した。設計・デザイン段階では、バリアフリーエレベーターや木造ビルを通じてサステナブルなまちづくりを目指し、施工段階では厳しい条件下で安全かつ確実な工事を実現しており、各段階においてそれぞれの女性リーダーの活躍により完成している。

女性活躍賞については、「計画や設計、デザイン、施工管理と各段階で必ず女性が活躍している点」が評価された。

奨励賞

本作品については、「2方向ラーメン構造を木造で実現している点」「梁や柱にLVLの耐火被覆材を使用しているため、様々な方が使える耐火木造となっている点」等が評価された。



外観正面



事務室内観_全景



事務室内観_南側を望む

©川澄小林研二写真事務所

03 | オフィス木質化賞ならびに奨励賞

野村不動産溜池山王ビル

受賞者 施主/野村不動産株式会社 都市開発第一事業本部
 設計者・施工者/清水建設株式会社

木質ハイブリッド技術「シミズ ハイウッド®」で耐震性・耐火性をクリア

本プロジェクトは、持続可能な社会の実現に向け、建築物の木質化に積極的に取り組む野村不動産と清水建設が、都心における良質な高層木質テナントオフィスのあり方を追求したプロジェクトである。

都心における高層テナントオフィスの木質化は、事業計画における経済性、テナントビルとしての可変性・機能性の確保とともに、高層化により求められる高い耐震性・耐火性の確保、それらを合理的に実現する施工方法の確立等が課題となる。

本計画では、清水建設が保有するオリジナルの木質ハイブリッド技術「シミズ ハイウッド®」の要素技術の深化・発展を通じ、与えられた課題に対する合理的な解決を図るとともに、その景観や空間がオフィスの可変性と相まって、人々の健康生活の推進や知的生産性の向上に寄与できるロングライフな環境となることを目指した。

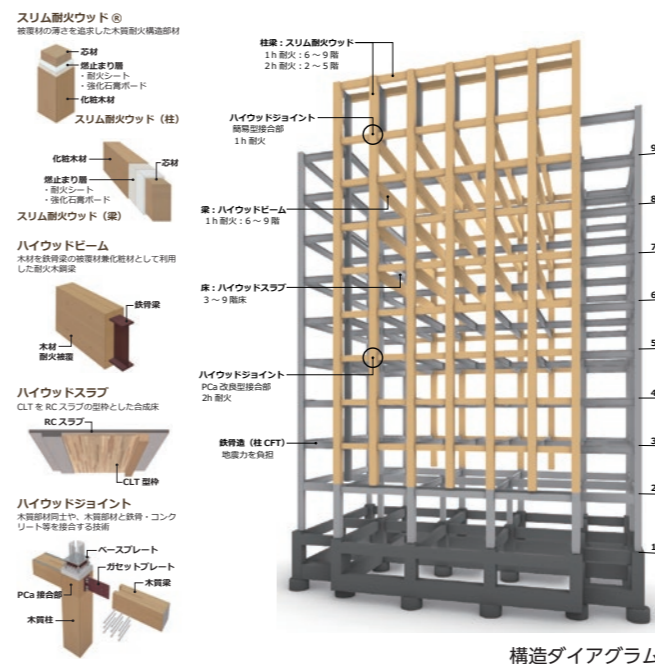
本計画では約470m³ (0.08m³/m²) の木材を使用しており、同種の建築では現時点で国内最大級の木材使用量・使用率となる。建設時のCO₂排出量は、全て鉄骨造とした場合と比較して約125 t-CO₂の削減効果を有し、炭素固定量は約285t-CO₂に上る。本建物を通じ、木質建築の魅力を広く社会に発信することで、持続可能な社会の実現の一助になることを望んでいる。



エントランス外観

シミズ ハイウッド®

「シミズ ハイウッド®」とは、木質構造を採用した中大規模の耐火建築の実現に向け、自由な木質空間の提供が可能な架構として、木質構造と鉄骨造・鉄筋コンクリート造の合理的な組み合わせを可能にしたハイブリッド木質技術となる。



外装面

外装面にグリッド状に配列した「スリム耐火ウッド®」を、既製サッシと透明フロートガラスにより部材毎にケーシングした上で、化粧木材となるスギ板にはメーカーと共同開発した高耐候性クリア塗料を塗布することで、力強い木の骨格の表出と長期間の美観保持を両立した。塗料は柔らかい基材で構成し、木材の伸縮に追従させている。前面のガラスは着脱可能な納まりとし、「スリム耐火ウッド®」の構成材である化粧木材の交換を視野に入れた。ゆるやかに変色する木質フレームの景観をポジティブに受け入れながらも、建物の消費期限まで使い続けることのできる、ロングライフな景観となることを目指した。



ラウンジ内観

ラウンジ

テナントワーカー専用ラウンジには、新規開発した準不燃クリア塗料を塗布した木天井を植栽と共に配置し、オフィスフロアとは趣の異なる木質空間を創出した。これまでの薬剤含浸型の準不燃木材は、断面が大きい集成材やCLTには適用できないという課題があった。今回、木材表面に塗装することで準不燃仕様となる透明塗料を開発・適用した。本塗料は透明性が高く、木現しの空間を実現するとともに、火災時の加熱を受けると塗膜が発泡して厚さ10mm程度の断熱層を形成し、木材の燃焼を抑制することができる。準不燃仕様を求められることの多い中高層オフィスビルの内装木質化のハードルを下げることで、更なる木質化の普及に貢献する。



エントランス内観

エントランス

エントランスは南北を貫通するコリドー空間とし、内外に渡り植栽を配置することで、外部環境を取り込んだ親自然的な空間とした。壁には大小様々なスギ材のルーバーを一定の規則性をもって配置することで、手入れをされた里山を彷彿とさせる、親しみやすい空間を目指した。

受賞概要・講評

港区に所在する木質テナントオフィスビルの新築。木質ハイブリッド技術を活用し、木質構造部材のフレームを透明ガラスでケーシングして木造骨格を現しているほか、開放的な木質無柱空間を創出している。

オフィス木質化賞
 本作品について、「外柱のない木質空間となっており、非常に迫力があって波及効果が期待できる点」等が評価された。

奨励賞
 本作品は、「木と鉄の組み合わせ方が興味深く、短手は鉄、長手は木であり、木と鉄が編み込まれているような構造体となっている点」「外観を見る角度で違った見え方がする点」等が評価された。



©Takumi Ota

04 奨励賞

学ぶ、学び舎 東京学芸大学HIVE棟

施主 / Mistletoe Japan合同会社
 受賞者 設計者 / VUILD株式会社
 施工者 / 有限会社アトリエ海

5軸CNCで、CLTから963もの木材パーツを切り出し、組み立てる

東京学芸大学の産官学連携を推進する教育インキュベーションセンター「Explayground」のプロジェクトとして建設された。

構造は、CLTを型枠として使用した鉄筋コンクリート造で、CNC加工されたCLTパネルをコンクリートスラブの型枠として使用し、仕上げ面の「残存型枠」として残している。主要構造体は鉄筋コンクリートだが、型

枠が水平力に対する余力として効くように設計しており、日本では前例がない。

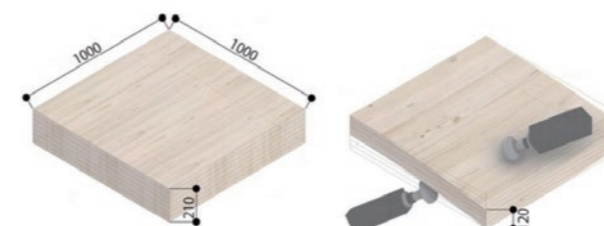
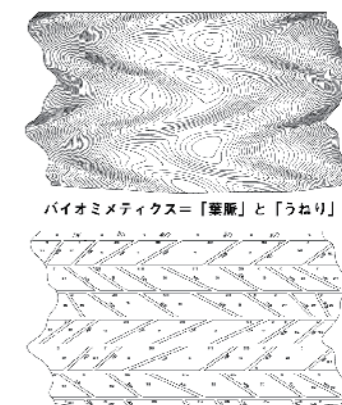
CADモデルは幾何学的なアルゴリズムにより自動生成され、それを補助線として5軸CNC加工のCAMのパスが作成された。木製型枠はすべて、VUILDの自社工場ですべて、5軸CNCマシンを使い切削されるという、通常の意匠設計や構造設計の枠を超えた建築物となっている。



CLT残存型枠×最薄コンクリートシェル

CLT梁は長手断面をサインカーブの曲線にし、その振幅の位相を短手方向にずらしていくことで、強いシェルをつくるという方法を探索していった。形状としては、度重なるスタディの末、自然界に見られる葉脈に倣った屋根形状になった。

ジグザクに断面を構成することでシェルのデプスをつくり、そのジグザク断面の位相を3層にずらしていくことで強度を持たせた。CLTのパネルは、3次元的に自社工場ですべてユニット切削し、現場で梁に接合、パネル同士も金具でつなげた。そこにコンクリートを流し、葉脈上の梁と葉脈間を覆うスラブという構造体へと発展させた。そして木梁のスパン25m、コンクリートスラブの厚さ8cmという薄さを実現している。この建築工法は特開2021-042568として特許申請されており、汎用性の高い工法として通常のシェル工法の6割のコストに収めることができた。



CLTの板を3次元切断する



CLT捨て型枠RCシェル



デジタルプロセスで設計から施工まで一貫して実現

5軸加工では、傾きと回転が特徴的であり、それを考慮に入れた最適化が要求された。5軸切削を行うためにパスを作る必要があるが、パーツ数は合計360枚のCLTパネルから963パーツの型枠を加工するという複雑なものであった。

自社のパラメトリックチームにより、自由曲面の幾何学的なアルゴリズムが自動的にCAD化できるように開発された。このパス作成のフローでは、加工後の手加工を減らすことも条件として設計された。またコンクリートで隠れるような箇所では適切な許容範囲において曲面を粗く加工したり、効率的にパネルを配置するなどしてコスト削減を実現した。

パネルの自動配置と形状生成のアルゴリズムによって、短期間でこの目的が達成され、配置のためのCLT板は1,350×4,000mmを上限に複数種類のものを用意した。CLT板には60～210mmの間に4通りの厚みがあり、どの厚みの板にネ스팅されているかを示す色をパネルに割り当てた。これによって、どの板から切り出すべきかを簡単に判断できた。このフローを構造チームとも共有することで、構造・施工利便性の両方の観点での最適化のシステムを構築することができた。



©toha



受賞概要・講評

小金井市に所在する大学内施設。CLTを型枠にした鉄筋コンクリート造であり、CNC加工された木材を残存型枠として残しながら主要構造体の余力として機能させている。

本作品は、「CNC加工機を使用し、CLTの厚みの中で曲面をつくるという造形的な自由度をうまく生かしている点」「木の柔軟性を感じる曲線の美しさ」等が評価された。



©鈴木淳平

05 | 奨励賞

東京科学大学 大岡山西5号館

受賞者 施主／国立大学法人東京科学大学
 設計者／国立大学法人東京科学大学 那須聖研究室・施設部、株式会社久米設計
 施工者／株式会社フジタ 東京支店

学生が集い学ぶ木質の大空間

建築を志す学生向けの4階製図室は、ヴォールト屋根に沿った高さ5.25mの曲面天井に加え、幅20m、奥行48mの大空間を木質で全面的に仕上げた。ヴォールト天井は木毛セメント板をベース天井として、小幅板を透かし張りすることで凹凸を作りだし、音の反射の集中を緩和している。

また、製図室では細かな作業を行うため、机上で750lx以上の照度を確保する必要があり、強い光が反射と散乱を繰り返すことが想定された。そこで、全面的に木仕上げを施すことで、一般的な白い内装よりも光の反射率を抑えている。集中して長時間にわたり白い図面に向き合うと目がくらむことがあるため、ふと顔を上げた時に木の質感が目を休ませてくれると同時に、素地の木から生じるテルペン類(α-ピネン)が、学生たちに安静と集中をもたらす効果を期待している。

また、壁は課題図面を貼ることができるモジュールとして、天井と同じ小幅板を用いた掲示板として機能する。

無塗装仕上げは香りが感じられ、音や光に対する木の効果も体感できる仕掛けとなっており、経年変化も含めて素材の特性を学べる生きた教材となっている。

システム化した設備と建具を統合化

小幅板の割り付けに合わせて、トップライト、照明、床吹空調のリターン排気口を配置することで、木質化空間にシステム化した設備や建具を統合して設置した。

空調は天井チャンバー方式を採用し、小幅板の間から排気することで木仕上げを通すことが可能となった。窓はハイサイドライトと地窓として、スリット状の採光とした。その他、天井点検口や壁には代替出入口建具があり、小幅板のモジュールに合わせて製作することで、仕上げを連続させて光が降り注ぐ木に包まれた大空間を実現した。



木質化空間に設備と建具を統合化



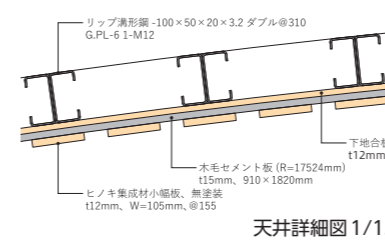
立体的なプレゼンテーションスペース

木質化したプレゼンテーションスペースは、4階と5階の立体的なハーフヴォールト天井となっている。製図室の小幅板を多孔質吸音材料である木毛セメント板に置き換え、透かし張りとして天井内を含めて気積を大きくすることで、吸音効果をより高める工夫を行った。下地は野縁27mm×45mm@303として木下地が見える納まりとしている。照明を組み込み、感知器等は天井内に設置、露出空調ダクト形式を採用している。製図室とスケールは同じにしながらも、異なる木質材料を使うことで対比的にした。



温かみのある食堂と学生ラウンジ

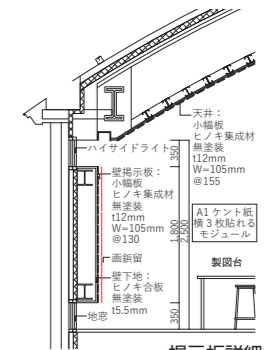
食堂と学生ラウンジは建築と一体の造作木製家具に囲まれた温かみのあるしつらえにしている。窓際にはカウンターを製作し、中央にはスタンディングカウンターとベンチを一体的に木で製作した。柱間に設置した7mのロングカウンターはナラ集成材t30mmを用い、木の塊としての存在感を示している。照明は2700Kのペンダントライトをアクセントに、木の温かみと呼応して学生がリラックスできるように工夫している。



天井詳細図 1/15



木材無塗装の風合い



掲示板詳細図 1/100

流通材と既製品を用いて施工ロスを削減

ヒノキ小幅板はt12mm、W=105mmとして、集成材の流通材モジュールで割り付けることで施工ロスを削減している。また、下地の木毛セメント板はt15mm、910×1820mmの既製品サイズを用いて曲率に沿って短手方向を配置した。小幅板は本実加工とはせず透かし張りとし、歩留まりと施工ロス削減を考慮しながら、コストを抑えて特徴的な曲面を実現している。

ヒノキ小幅板は素地を生かし無塗装

経年変化を考えると塗装することが多い木だが、建築を学ぶ学生にとって生の木材に触れる機会を尊重し、あえて無塗装とした。これにより、木そのものの香りに満たされ、材質の風合いを感じる事が可能になっている。また、木目の表情や集成材の継ぎ方を見ることができ、経年変化や表面の研磨によって手触りが変わることも感じることができる。

木仕上の壁は課題掲示板として機能

壁は横向きのA1ケント紙を上下に3枚並べられるモジュールとし、天井と同じ小幅板を用いて連続的に製作している。学生自ら画びょうで掲示する際に木に触れることができ、無塗装の仕上げは表面研磨の質感や木の硬さを実感しながら素材の特徴を学ぶきっかけとなる。掲示物がない時は天井と一体的な木仕上げとなり、木質化した大空間を作り出している。

受賞概要・講評

目黒区に所在する大学内施設。建築を志す学生の利用スペースを全面的に木質化され、木質にあたって音の吸音効果や光の反射率等にこだわり、学生に安静と集中をもたらす効果が期待できる。

本作品は、「伸びやかな空間でデザインが非常に良い点」「音や光の吸収・拡散、匂いにも配慮して、成形に用いている点」等が評価された。



©川辺明伸

06 奨励賞

休昌院 — 令和の大改修 —

受賞者 設計者／合同会社あまね設計

漸進する伝統 — 街の風景と建築家 —

臨済宗寺院の本堂・寺務所・庫裏の改修・減築・増築・新築を含む大規模改修を7年にわたり行った。場所は東京都台東区池之端。江戸時代より栄えた寺院群の一つである休昌院は、地域の風土・文化を体現する文化資源の一つでありながらも、度重なる増改築により本来の寺院の象徴性や格式が薄れ、その価値が被覆されているような状態にあった。

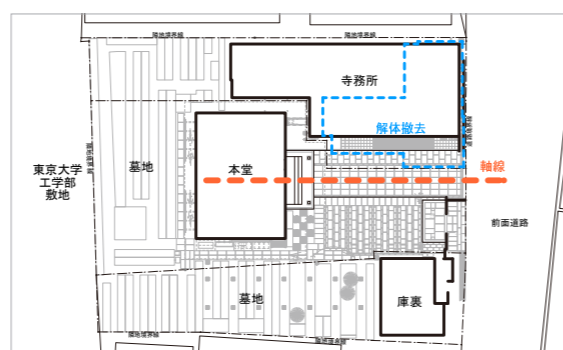
今回の改修は、社会的価値（ガイドラインによる適合証明取得）を担保しつつ、本来の寺院の象徴性や格式を再評価し、「用・強・美」の3つの文化的価値を高めるノウハウの構築でもある。

寺務所と庫裏が本堂の正面をふさぎ、かつ必要以上に高い棟を持っていた。そのボリュームを抑えるため、庫裏は移設、寺務所は減築し、それに伴い全体の整備を行った。また、本堂は耐震改修と修繕を行ったが、外観上は以前と変わりなく見えるように、復元的な改修を行った。

また、日本の木材を利用することは、日本の大工が持っている技術を伝える意味も含む。宮大工ではなく、一般の大工にも施工できるように伝統的な仕口継



寺務所：既存部と増築部の境目のトップライトから"渡りあご掛け"の連続梁を通り抜け、建物中央部に自然光が降りそぐ



手を用いつつ、新たな納まりを検討するという地味な作業も、私たち建築家の役割でもあると考えている。伝統は尊重しつつも、新たな技術と調和を図り、漸進していくことで輝き続けるだろう。

社会的価値の担保

この建物については、まず社会的価値を持たせる必要があった。既存建物の一部は検査済証のない建物であったため、「検査済証のない建築物に係る指定確認検査機関等を活用した建築基準法適合状況調査のためのガイドライン」による調査と耐震診断を行い、増築対象となる建物の合法化を図った。



①住宅医とともに建物の実測調査を行い図面資料を作成



②既存建物を分析し耐震補強工事を実施



③耐震性を担保した既存建築物としてガイドラインによる適合性を確認

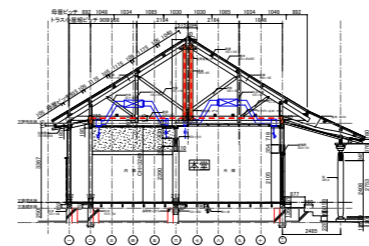
文化的価値の再構築



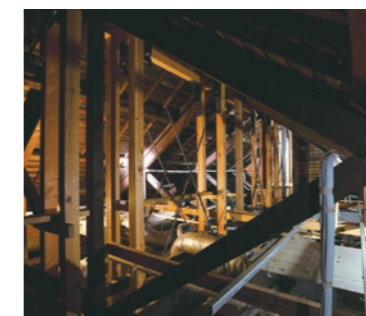
「用」(用途)

現代の法要が床座から椅子座に変わっていることや、空調機器の更新と効率化などに対応し、使い勝手を改善した。

本堂：耐震壁を増やしつつ建具を更新。畳を取りやめ、フリ無垢材の朝鮮張り床とした



本堂耐震改修断面図



小屋裏耐震補強

「強」(強度)

大地震が起きても倒壊しない程度に耐震強度を増した。

本堂は建築基準法施行（昭和25年／1950年）前の建物であるため、現行建築基準法・耐震改修促進法のいずれにも適合させることはできないが、文化遺産を守るため、任意での耐震改修を行った。

小屋組の補強、耐力壁の追加、基礎の追加が主な補強措置である。



縦格子ピッチをそろえることで敷地内の他の建物との調和を図る



既存部と増築部の境目には、エキスパンションジョイント機能を備えたトップライトを考案し、手刻みの伝統的な仕口継手に光が集まるシーンを演出した

「美」(美しさ)

社寺建築文化を尊重しつつ、敷地内の他の建物とも調和が取れるデザインコードを決め、細部まで丁寧に仕上げた。

受賞概要・講評

台東区に所在する寺院の減築、増築、新築を含む大規模改修。ガイドラインによる適合証明取得などの社会的価値を担保しつつ、「用途、強度、美しさ」の3つの文化的価値を高める建築物となっている。

本作品は、「検査済証のない建物を適合認定のガイドラインを使い、法的な質の担保を確保しつつ新しい増築を行っている点」「都市部において伝統的な社寺建築の改修を行っている点」等が評価された。



©ナカサ&パートナーズ/辻谷宏

07 奨励賞

nonowa 国立SOUTH

受賞者 施主／株式会社JR中央線コミュニティデザイン
 設計者／株式会社JR東日本建築設計、Koizumi Studio
 設計者・施工者／株式会社大林組

剛接合化技術を用いた純ラーメン構造の都市型ハイブリッド木造商業施設

JR中央線国立駅直結の木造商業施設。「サステナブル」をコンセプトに掲げ、景観やまちづくりの取り組みに力を入れる文教都市・国立にふさわしい建築を目指した。

一方で、脱炭素社会の実現に資するため、可能な限り木造・木質化を行うことを大きな目標とした。そこで、柱を全て木造とし、鉄骨梁の耐火被覆の大部分を木質化するハイブリッド構造を採用した。両者をプレキャスト鉄骨鉄筋コンクリート造の仕口により剛接合する新工法により、筋交いのない商業施設として見通しがよくテナントレイアウトの自由度が高い空間を実現した。

木材使用量は、構造体で205㎡、仕上材も含めた全体で239.4㎡に達する。そして全面ガラスファサードを採用し木の架構を積極的に「魅せる」ことで、街のシンボルでもある木造の旧駅舎との一連の景観を生み出し、ソフト・ハードの両面で国立市の表玄関にふさわしい建築を実現した。

内部は構造体としての木材利用だけにとどまらず、内装仕上材からサインに至るまで一貫してサステナブルな建材を採用することを心がけた。共用部の壁仕上材や外構のベンチには地域の木材である多摩産材の杉

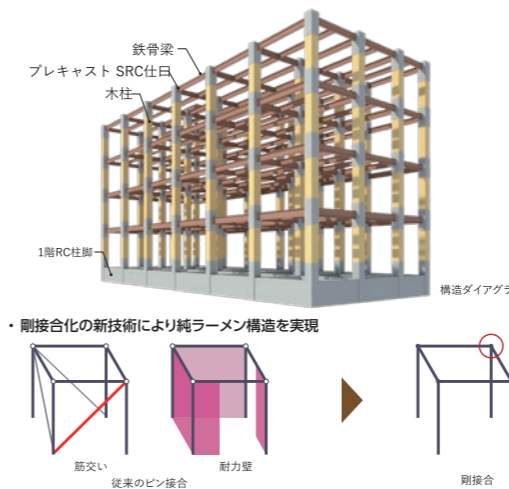
を大面積で使用。床材タイルやバナーサインには再生材を多く含むものを採用している。さらに、国立市内で老朽化により伐採された桜の木を活用して館内サインやドア取手を製作した。事業コンセプトに沿って丁寧に素材を選定し、利用者が木に親しみを感じられる空間をデザインした。



木の架構が秩序を生み出す共用通路

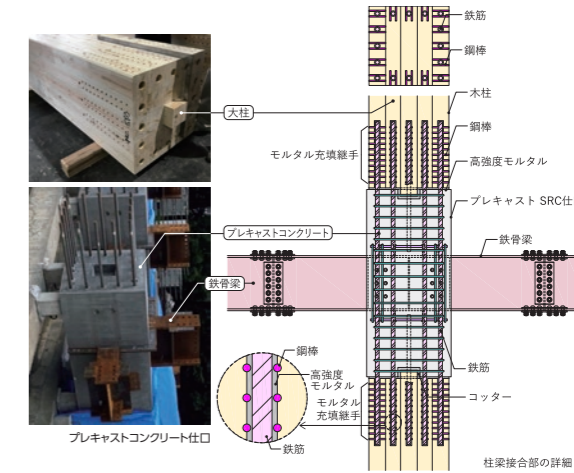
ハイブリッド木造

本建物における構造上の最大の特徴は、柱を木造、梁を鉄骨造とした「ハイブリッド木造」を採用していることである。柱を木造とし木材利用量を確保しつつも、梁を鉄骨造とすることで、従来の鉄骨造に近い耐震設計を可能としている。



木柱-鉄骨梁の剛接合化技術

大林組開発の木柱-鉄骨梁の剛接合工法を用いて、筋交いや耐力壁のないラーメン架構を実現した。鉄骨梁はプレキャストSRC仕口に埋め込み、木柱とプレキャストSRC仕口の接合には「モルタル充填継手工法」を採用している。

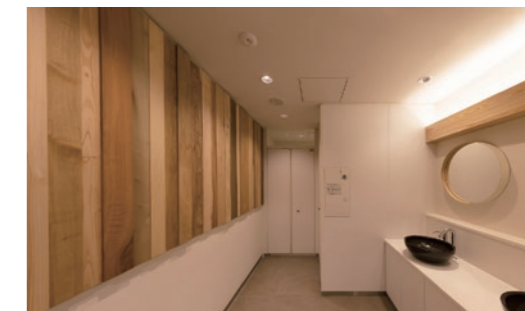
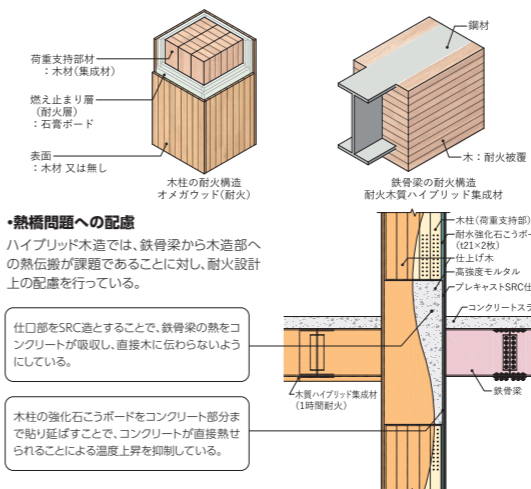


耐火設計

木柱は、表面に強化石膏ボードを貼った「オメガウッド(耐火)」を採用。鉄骨梁は集成材を耐火被覆として利用する耐火木質ハイブリッド集成材(日本集成材工業協同組合による製造)を採用することで、木造梁に近い木材利用量を可能としている。

熱橋問題への配慮

ハイブリッド木造では、鉄骨梁から木造部への熱伝搬が課題であることに対し、耐火設計上の配慮を行っている。



トイレにはさまざまな国産材の木パネルを設置



壁一面の仕上げや手摺に多摩産材の杉を採用した客用階段

受賞概要・講評

国立市に所在する国立駅前の商業施設。柱を全て木造とし、鉄骨梁の耐火被覆の大部分を木質化するハイブリッド構造を用いて、テナントレイアウトの自由度が高い空間を実現している。

本作品は、「木造でラーメン構造を形成しており、ジョイント部分をSRC造にしている点」「縦が木、梁が鉄、ジョイントがSRCであり、挑戦的な技術の革新をしている点」等が評価された。



08 | 奨励賞

豊洲 千客万来

受賞者

施主・設計者／万葉倶楽部株式会社

設計者／株式会社シェルター、株式会社アンデザイン

設計者・施工者／五洋建設株式会社

施工者／株式会社石井工務店

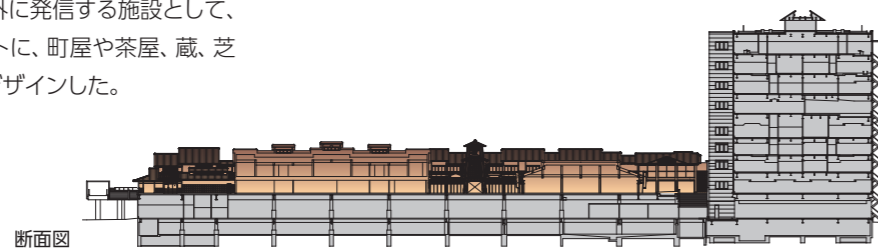
木材をふんだんに活用し、江戸の街並みを再現

豊洲市場に隣接する、江戸の粋を味わう体験型観光施設。飲食・物販店舗が並ぶ「食楽棟」と、温泉・展望足湯を楽しめる「温浴棟」により構成される。

地下は鉄骨造（外周部は鉄骨鉄筋コンクリート造）、温浴棟と食楽棟1階は鉄骨造、食楽棟2～3階は木造（一部鉄骨造）であり、防火地域ながら5,300m²を木造化した。温浴棟も内装を木質化している。

木材使用総量は1,085m³、炭素貯蔵量は944t-CO₂である。国産材は構造材、内外装材に使用し、中でも多摩産材は利用者の目に入りやすい食楽棟の柱・梁の表面材、外壁材、温浴棟の内装材（壁・天井）等に102m³活用した。

食楽棟は日本の食文化を国内外に発信する施設として、江戸の街並みの再現をコンセプトに、町屋や茶屋、蔵、芝居小屋などをモチーフに店舗をデザインした。



耐火構造でも木材をあらわしにするため、柱と梁には国土交通大臣認定を取得した木質耐火部材「COOL WOOD」（1時間耐火仕様）を採用した。本製品は構造材に燃え止まり層として石膏ボードを貼った上に、さらに表面材として木材を貼るため、木材使用量の増加、木質感のある空間の実現が可能である。表面材には多摩産材を使用した。外周部の屋根は二重垂木とし、一層目で屋根の耐火性能を確保し、軒先に垂木を見せることができるようにした。

オープンから5カ月で235万人以上が訪れ、東京の newName 所として賑わいを創出している。



©Blue Hours

食楽棟は市場の新鮮な食材を使った飲食・物販店舗が並ぶ。外壁や内装に多摩産材を活用し、江戸時代の活気ある魚河岸の雰囲気再現した。屋根には6万枚の淡路瓦を使用している。



©Blue Hours

食楽棟2階「豊洲目抜き大通り」。町屋、茶屋、蔵、芝居小屋などを模した店舗の軒先に木をあらわしにするため、耐火構造+化粧垂木としている。

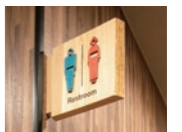


©KOZO TAKAYAMA



©KOZO TAKAYAMA

食楽棟3階のフードコート。梁には表面材に多摩産材を使用した木質耐火部材「COOL WOOD」を採用した。間伐材で製作したサインや、木の色合いを活かしたフロア案内など、至る所に木材を活用している。利用者から「従来の大型商業施設にはない温かみ、優しさ、くつろぎ感を感じました」との声をいただいた。



©Blue Hours

温浴棟2階のエントランス。箱根・湯河原温泉の湯を楽しめる温泉施設やホテルがあり、屋上の展望足湯からは都心を一望できる。内装には多摩産材を活用した和モダンなデザインを施している。



©KOZO TAKAYAMA

広場の「時の鐘」

受賞概要・講評

江東区に所在する体験型観光施設。食楽棟2・3階を木造、温浴棟の内装も木質化することで、膨大な木材を使用しており、かつ耐火構造で木材を現しに使用、外周部の屋根を二重垂木としている。

本作品は、「防火地域内で制約の厳しい中、木をあらわしで使用している点」「木材使用総量が1,000立米メートル以上である点」等が評価された。